

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第2部門第5区分
【発行日】平成18年7月20日(2006.7.20)

【公開番号】特開2004-10041(P2004-10041A)
【公開日】平成16年1月15日(2004.1.15)
【年通号数】公開・登録公報2004-002
【出願番号】特願2003-159843(P2003-159843)

【国際特許分類】

B 6 0 T 8/32 (2006.01)
F 1 6 D 63/00 (2006.01)
F 1 6 D 65/34 (2006.01)

【F I】

B 6 0 T 8/32
F 1 6 D 63/00 H
F 1 6 D 65/34

【手続補正書】

【提出日】平成18年6月5日(2006.6.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 9】

【発明の効果】

請求項1に記載の特徴を有する本発明の方法は、制動しようとする対象特に車両の運動センサを用いるように設定されている。パーキングブレーキ装置が作動すると、運動センサによって、制動対象が移動しているかどうか検査される。制動対象が移動している間は、制動対象は、パーキングブレーキ装置が作動されるまえに、常用ブレーキ装置によって停止状態まで制動される。この場合停止状態には、望ましくは制動対象のゆっくりな移動も含まれる。本発明の方法によって、パーキングブレーキ装置の作動に際して、走行中に、車両の制御不能の制動が回避され、特に車両の単数または複数の車輪のロックが回避される。不安定な走行状態は回避される。走行安全性が高められる。本発明の方法は、特に走行中のパーキングブレーキの不都合な作動、つまりたとえば同乗者によるパーキングブレーキの誤った作動、または電気系/電子系エラーの際の安全手段として設けられている。もちろん車両またはその他の制動対象は、パーキングブレーキ装置の作動によって意図的に停止状態まで制動することもできる。